金融教育アプリによる若年社会人のライフデザイン支援

事業報告書

令和8年1月30日

三井住友海上火災保険株式会社

目次

サマリ	2
1. 本事業における背景と目的	3
2. 実施体制	4
3. スケジュール	5
4. 実施内容	6
5. 効果検証	8
6. 本事業から見えた課題と示唆	14
参考資料	
1. アンケート調査票	18
2. アンケート調査結果	26

金融教育アプリによる若年社会人のライフデザイン支援（三井住友海上火災保険株式会社）

- 若年社会人が金融リテラシーを向上させ、自信を持ってライフデザインに取り組めるよう支援するため、金融教育アプリを通じたコンテンツの配信とライフデザイン支援ツールの提供を行った。その結果、ライフデザインに関する理解度の向上が確認された。また、ファイナンス関連の情報収集についての関心が高いことも示された。

実施目的

- 若年社会人が金融教育を通じて金融リテラシーを向上させることで、将来への不安を軽減し、自信を持ってライフデザインに取り組めるようになること。

実施内容・スケジュール

- 実証フィールド先企業2社に対し、令和7年11月より金融教育アプリを導入した。従業員に対して、各種コンテンツ（記事、動画、セミナー）を提供し、ライフデザイン策定を支援した。

	令和7年			令和8年
	10月	11月	12月	1月
A社・B社共通	・アプリ導入へのシステム対応等の準備 ・導入企業向け説明	・アプリ利用開始 ・従業員向け説明会	・導入企業との定期面談 ・導入先アンケート(第1回) ・新機能開発	・導入企業との定期面談 ・導入先アンケート(第2回) ・新機能開発



メール送信機能等を活用して、従業員の利用者増加・利用頻度向上を促進



アプリでのコンテンツ閲覧
ライフデザイン支援ツールの活用

実施体制・実証フィールド

- 事業実施者：三井住友海上火災保険株式会社
- 実証フィールド：
  A社・受託開発ソフトウェア業・従業員数98名(利用者49名)
  B社・非鉄金属卸売業・従業員数28名(利用者8名)

効果検証結果

- 主たる検証項目においては、ライフデザインに関する理解度が一定程度向上したことが確認された。また、理想的なライフデザインの情報に対する関心は「ファイナンス」関連に集中していることが示唆された。

«利用者»

解像度をあげることによって、このまま日々を過ごすのではなく、自分のライフデザインが必要だなと感じました。

【プログラムで得たいライフデザインの情報】
1位（ファイナンス）資産形成・資産運用
2位（ファイナンス）税制・制度
3位（ファイナンス）公的な経済支援

ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた示唆

- ライフデザインの必要性に関する実感が不足している。
- 支援が、会社からの「押し付け」とならない説明や工夫が必要である。
- 現状は費用対効果を示すデータを蓄積するフェーズであり、企業への活動普及のためには、国や自治体などの支援が有効と思われる。

1. 本事業における背景と目的

- 当社は、若年社会人が主体的にライフデザインに取り組むうえで、「お金」に関する知識や考え方が不足していることに課題があると考えている。この課題を解決するため、「お金」の側面からライフデザインを支援する取り組みが有用であると判断し、金融教育アプリを活用したライフデザイン支援の実証と効果検証を行った。

背景

- 若年社会人がライフデザインを描くには、結婚・出産・育児、住宅購入、老後生活など、人生の重要なライフイベントを踏まえたライフプランを立てる必要がある。しかし、それらのイベントにおいて「お金」は切り離せない要素であるものの、特に若年層では「お金」に関する知識や考え方が不足していることに課題があると考えている。さらに、従来の金融サービスは主体的に情報に取りに行こうとする人にしか届きにくいという課題があると考えている。
- そこで、金融教育アプリを活用して若年社会人の金融リテラシーを向上させ、将来の不安を軽減しながら自信を持ってライフデザインに取り組めるように支援することが必要と考えた。

目的

- 若年社会人が金融リテラシーを向上させ、中長期的な貯蓄や資産形成の目標を設定し、各自のライフイベントに合わせた具体的な将来設計を行えるよう支援することを目的に、金融リテラシー向上のコンテンツとライフプランシミュレーション機能を組み合わせたサービスを提供する。
- その上で、若年社会人が資産形成を学び、自らのライフプランを主体的に設計するきっかけを得ることで、生活の質が向上し、将来への安心感を得られるようになることを目指す。
- さらに、企業を通じてサービスを提供することで、キャリアと個人生活の調和を図り、職場でのエンゲージメント向上や早期離職・人材不足といった企業課題の解決にも寄与することを目指す。

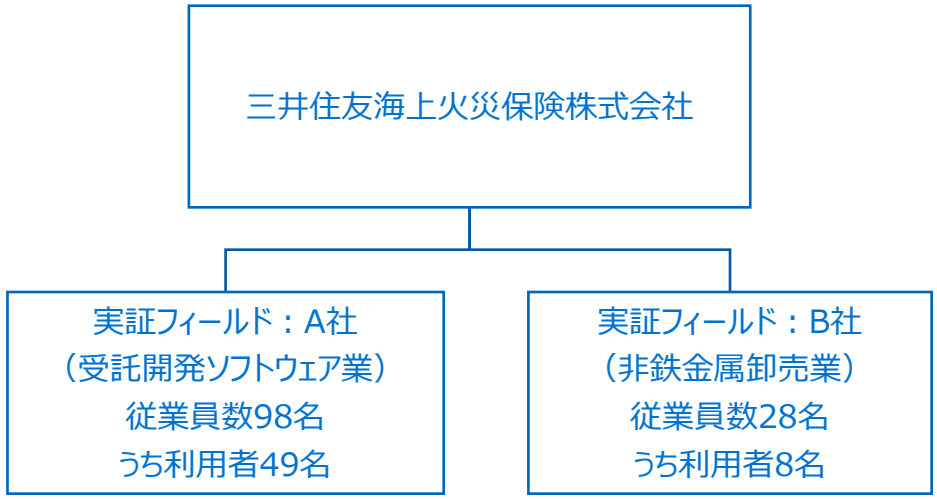
2. 実施体制

- 実証フィールド先2社の従業員に対し、金融教育アプリを通じたコンテンツの配信とライフデザイン支援ツールの提供を行い、その効果検証を実施した。

団体の概要

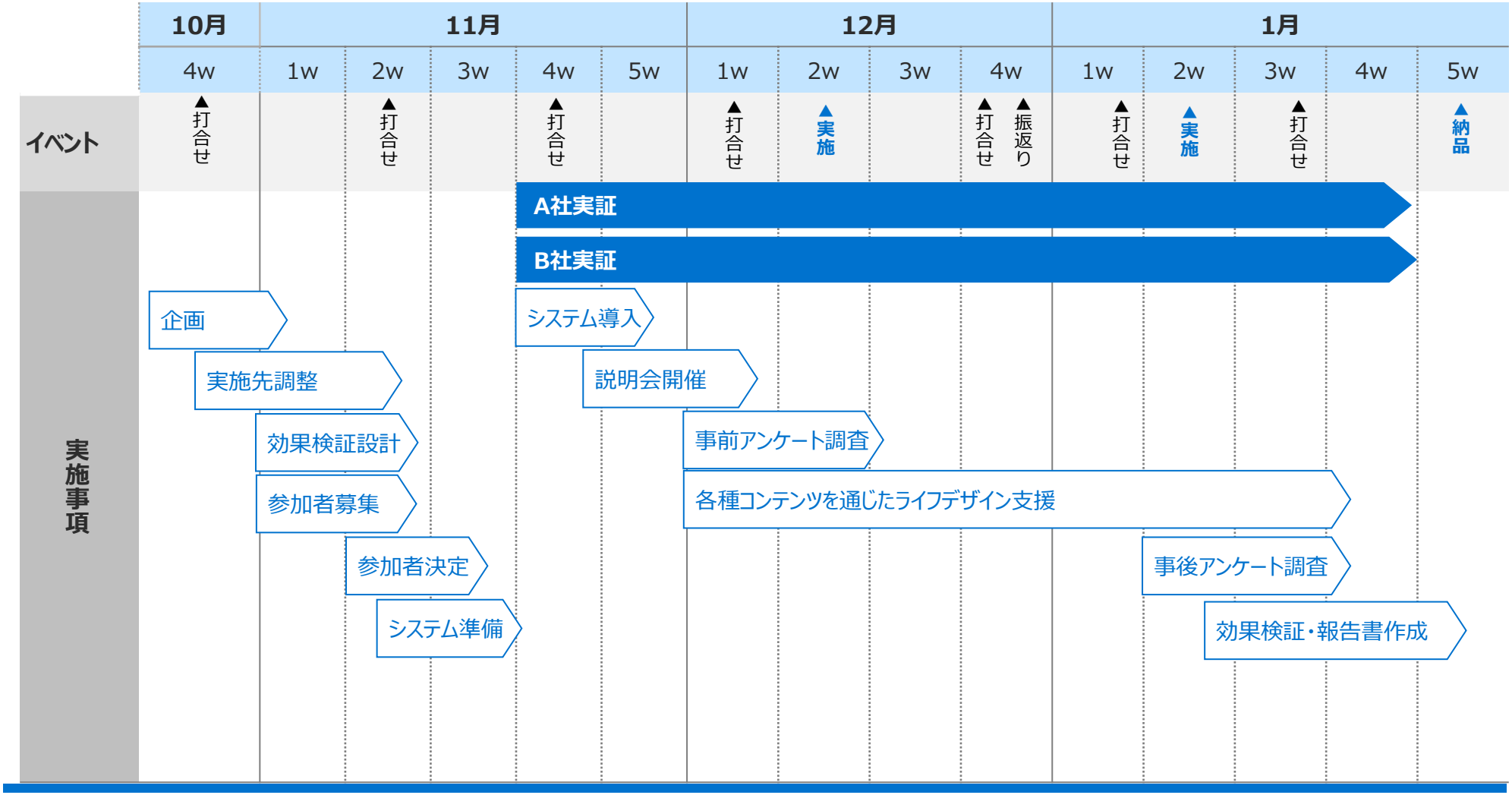
団体名	三井住友海上火災保険株式会社
本社所在地	東京都千代田区神田駿河台3-9
代表者役職氏名	取締役社長　社長執行役員　舩曳 真一郎
設立年	大正７年10月
従業員数	12,093人（単体・令和7年3月時点）
事業内容	1.損害保険業 (保険引受・資産の運用) 2.他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行 3.債務の保証 4.確定拠出年金の運営管理業務 5.自動車損害賠償保障事業委託業務
URL	https://www.ms-ins.com

実施体制の詳細



3. スケジュール

- 本事業は、令和7年10月から令和8年1月の4か月間で実施。
- 令和7年11月より導入を開始し、令和7年12月および令和8年1月にアンケート調査を実施。



4. 実施内容｜全体の流れ

- 実証フィールド先企業2社に対して、令和7年11月より金融教育アプリを導入し、従業員に対して各種コンテンツ（記事、動画、セミナー）を提供し、ライフデザイン支援ツールの活用を促した。

「マネマ®」の導入

（三井住友海上）

・「マネマ®」の提案、利用契約締結
・企業情報登録、利用ID・PW発行

（A社窓口担当者・従業員）

・従業員への周知(窓口担当者)
・初回設定・アプリ導入(従業員)

「マネマ®」で知識習得

利用者の好きな時に各コンテンツを視聴し、ライフデザインについての知識を習得

（例）
・セミナーで相続の専門家から生前贈与について学ぶ
・動画で資産運用の始め方の知識を増やす
・コラムで教育費や不妊治療の費用・補助金など、新しい知見を得る
・家計簿機能とライフプランシミュレーションの利用意義を知る

ライフデザイン支援ツールの活用

習得した知識とライフデザイン支援ツールを活用してライフをデザインする

（例）
・家計簿機能で資産を見える化する
・ライフプランシミュレーションで自分の人生を描く

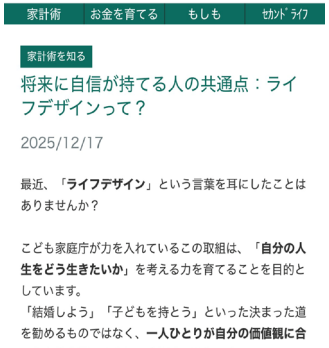
※上記と並行して、アプリの活用状況を三井住友海上にて月次で分析のうえ、窓口担当者にフィードバックして利用促進を図った

コンテンツ例



アプリで各コンテンツを閲覧可能

«記事»



«セミナー»



«ライフプランシミュレーション»



4. 実施内容｜導入先企業の具体的な課題、本実証の取り組み、成果と今後の展開

- 導入企業の共通課題は、「企業型確定拠出年金の効果の最大化」であったところ、従業員がライフデザインに取り組む支援をすることは、当制度の有効活用にもつながることに共感が得られ、本実証に協力いただけることとなった。
- 人事部門との定期打合せを通じ、プラットフォームとしての利用定着に向けた取り組みと工夫を主に行った。
- 今後、アプリ利用を定着させることを目標に定期的な情報提供の継続と追加の機能開発を検討している。

導入企業の課題

今回実証事業に協力いただいた企業は、従業員の将来設計を支援するために企業型確定拠出年金（DC）制度を導入しているものの、以下の共通課題を抱えていた。

①制度の周知不足：従業員に対してDC制度が十分に理解・認知されていない。

②運用の課題：従業員が制度を適切に活用せず、理解が不十分なまま元本確保型商品で運用が放置されている。

これらの課題に対応するため、従業員のライフデザインを支援するという今回の実証事業の方向性に賛同いただき、協力を得ることができた。

取り組みと工夫

導入企業ごとに、導入前から隔週で打ち合わせを実施し、周知取組カレンダーを共有することで計画的な従業員向けPRを展開した。

具体的な取り組みは以下の通り。

①導入周知イントラメール発信
②従業員向けオンライン説明会開催
③オンラインセミナー（月2回開催）
④おすすめの使い方情報発信

さらに、企業の人事担当者の負担を軽減するため、今回の実証事業で開発した「従業員向けメール発信機能」および「企業別プッシュ通知機能」を活用し、マネマ®と人事部門が並行して情報発信を行える仕組みを構築した。

成果と今後の展開

令和8年1月末時点でのアプリ利用率は以下の通り。

A企業：50.0%(49名/98名)

B企業：28.6%（8名/28名）

プラットフォームとしての初動としては一定の成果を上げることができた。
特に、新規開発したメール発信機能を用いて告知を行ったセミナーなどのライブ感あるイベントの前後で登録率が向上する傾向が見られた。

今後も、定期的な情報提供を継続するとともに、セミナーを中心とした集客イベントを積極的に開催することでアプリ利用を定着させ、各自がライフイベントに合わせた具体的な将来設計を行えるようになることを目標としている。

5. 効果検証　1)検証手法

- Microsoft　Formsを用いてWebアンケート調査を実施し、効果検証を行った。
- アンケート調査票については、参考資料を参照のこと。

項　目	内　容
調査方法	• Webアンケート調査
対象者	• 受託開発ソフトウェア業の従業員98人（うち、マネマ®利用登録者数49人） • 非鉄金属卸売業の従業員28人（うち、マネマ®利用登録者数8人）
回収数	• 事前調査：20人 • 事後調査：24人 ※事前調査回答者には原則事後調査にも回答いただいているが、事後調査のみ回答した利用者も存在しており、事前・事後調査の回答者は必ずしも一致しない。
設問数	• 設問項目：18問（事前調査） • 設問項目：28問（事後調査）
実施時期	• 事前調査：令和7年12月 • 事後調査：令和8年1月

5. 効果検証　2)検証結果ーサマリ

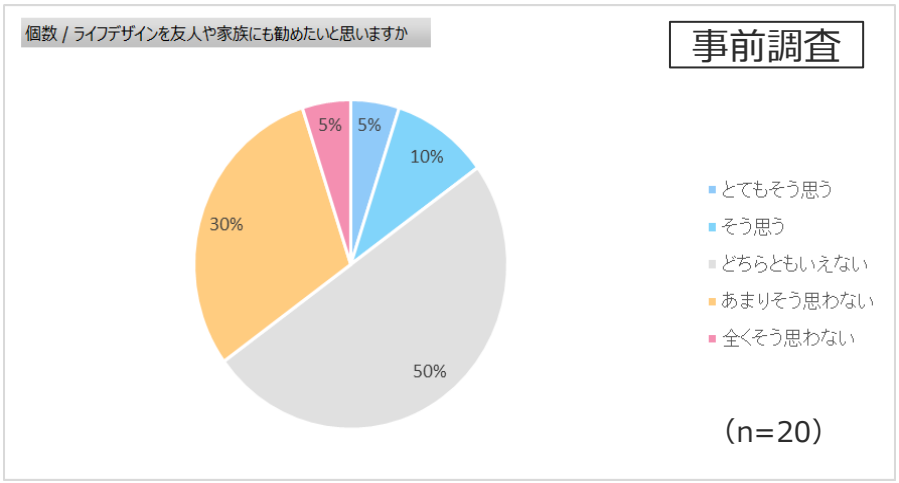
- 主たる検証項目においては、ライフデザインに関する理解度が一定程度向上したことが確認された。また、理想的なライフデザインの情報に対する関心は「ファイナンス」関連に集中していることが示唆された。
- アンケート調査結果の全体は、参考資料を参照のこと。

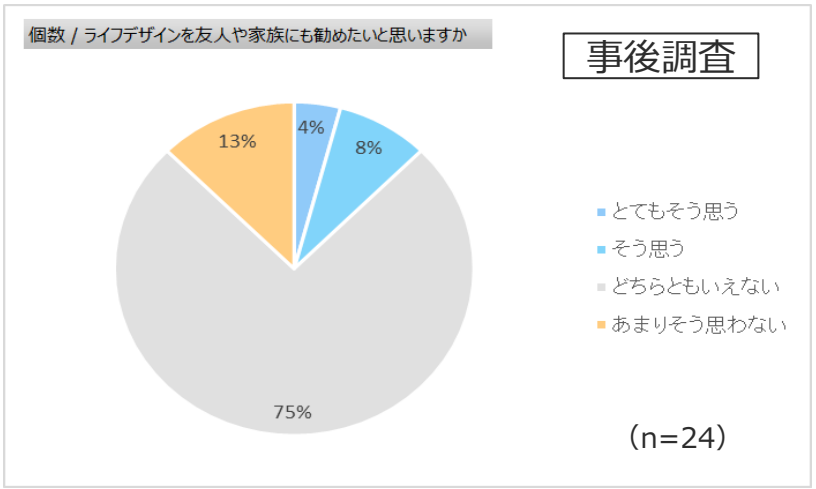
本事業の目的	検証項目	検証結果
若年社会人が金融教育を通じて金融リテラシーを向上させることで、将来への不安を軽減し、自信を持ってライフデザインを描けるようになること	【事前・事後比較】 ライフデザインを友人や家族にも勧めたいと思いますか	「全くそう思わない」「あまりそう思わない」という否定的な回答が減少した 実施前：**35%** ➡ 実施後：**13%**（有意差あり）
	【事後調査】 今後もライフデザインに関するプログラムが企業や団体等から提供された場合に取組みたいと思いますか	「そう思う」の回答が「そう思わない」を大きく上回った そう思う：**38%** ＞ そう思わない：**12%**
	【事後調査】 あなたが理想的だと思う、プログラムで得たいライフデザインの情報についてすべてお選びください	サービス未利用者も含めてファイナンスへの関心の高さを確認できた 1位（ファイナンス）資産形成・資産運用 2位（ファイナンス）税制・制度 3位（ファイナンス）公的な経済支援
	【事後調査】 あなたが理想的だと思うプログラムの提供形態を教えてください	Web（アプリ含む）による提供形態へのニーズがあることを確認できた 1位：eラーニング 2位：セミナー・講演 3位：カウンセリング・ヒアリング

5. 効果検証　3)検証結果ー詳細

- ライフデザインを友人や家族に勧めたいと思うかについては、実施前では「そう思わない」「全くそう思わない」といった否定的な回答が多い傾向があった。この要因として、ライフデザインに対する理解が不足していたことや、具体的な経験や実感が乏しかったことが考えられる。
- 実施後には一定の理解が進み、否定的な回答が減少し、「どちらとも言えない」といった中立的な反応が増えたことが確認された。

【ライフデザインを友人や家族にも勧めたいと思いますか】

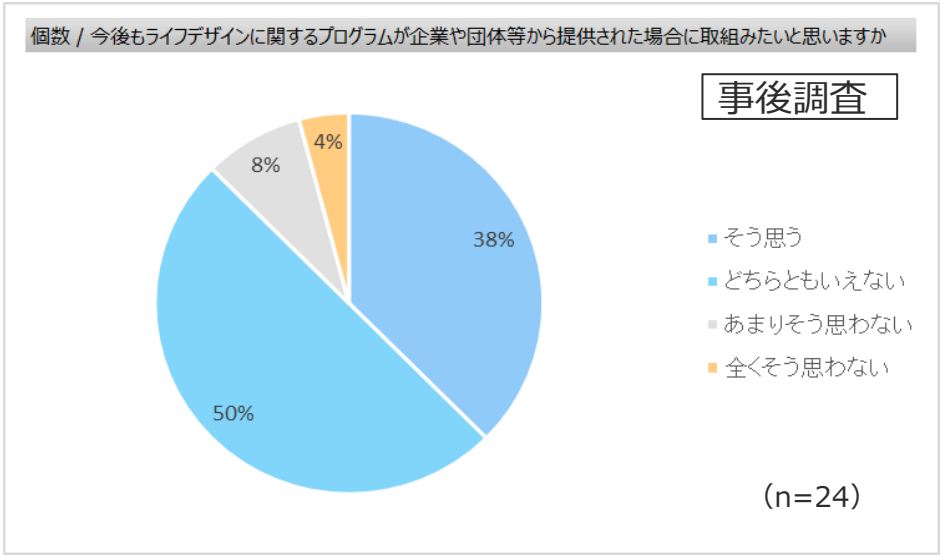




5. 効果検証　3)検証結果ー詳細

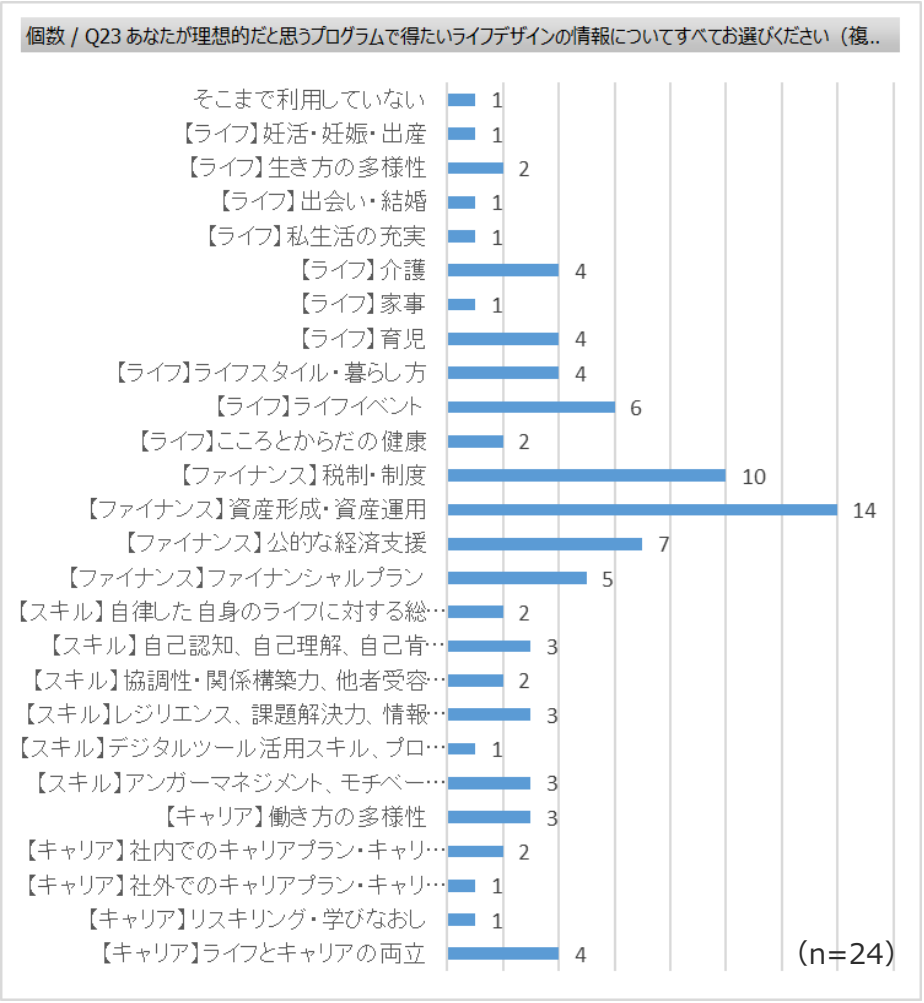
- 本サービスは企業の人事・総務部門などを通じて従業員に周知案内される仕組みである。
- 今後もライフデザインに関するプログラムが企業や団体等から提供された場合に取組みたいと思うかについては、「そう思う」の回答が「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の回答を大きく上回り、アプリを通じて企業から情報提供される形態に対しては好意的な反応が多く見られた。

【今後もライフデザインに関するプログラムが企業や団体等から提供された場合に取組みたいと思いますか】



5. 効果検証　3)検証結果ー詳細

【あなたが理想的だと思う、プログラムで得たいライフデザインの情報についてすべてお選びください】

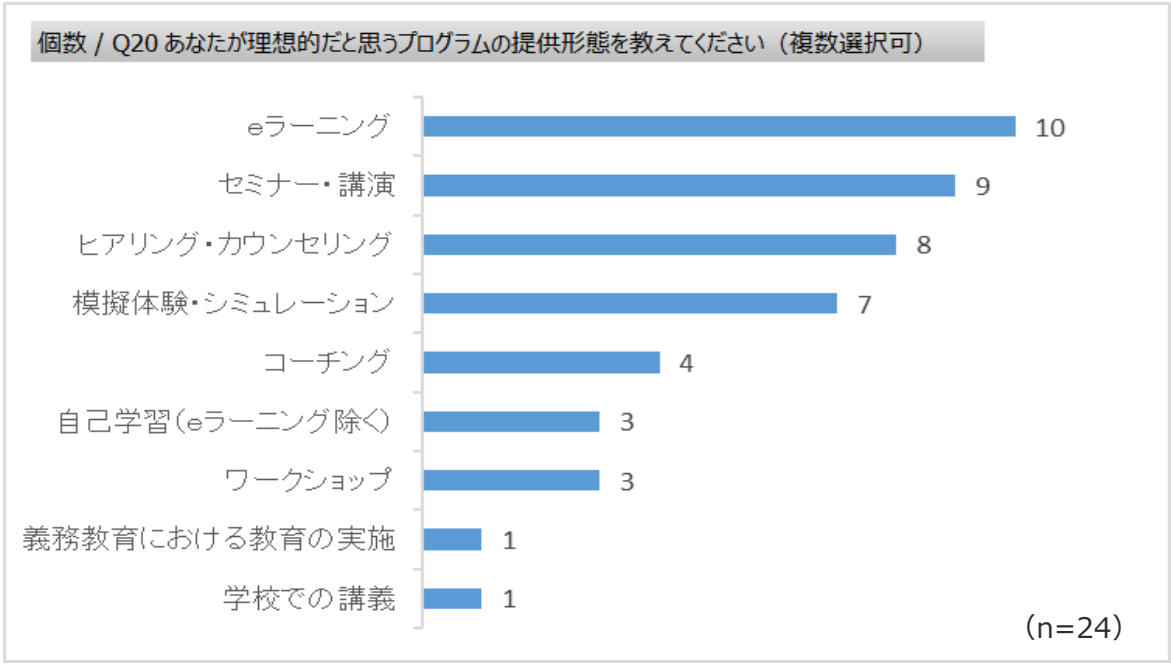


- 回答者が今後得たいライフデザインの情報については、上位1～3位すべてが【ファイナンス】に関連する項目で占められる結果となった。
- 本結果には、サービスを利用していない方の回答も含まれていることから、普段から資産形成に関心を持っていた層だけでなく、サービス未利用者も含めて【ファイナンス】への関心が一番高く、次いで【ライフ】にも関心が高いことが確認された。
- 当社では、若年層がライフデザインを描く際に不安を抱える要因として【ファイナンス】に関する項目が多いのではないかと仮説を立てていたが、本結果によってその仮説を裏付けるデータが得られたと考えられる。

5. 効果検証　3)検証結果ー詳細

- 理想的だと思うプログラムの提供形態については、アプリやWebを活用した自己学習型の提供形態についての支持が高く、アプリを通じたプログラム提供が有効な手段であることが示唆される。
- その要因として、仕事や家事で多忙な社会人にとって、時間や場所を問わずに参加できる気軽さが重視されているものと推察される。

【あなたが理想的だと思うプログラムの提供形態を教えてください】



6. 本事業から見えた課題と示唆 1)ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた示唆 ア)課題

- ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた課題として、1.当事者および3.人事部門における、ライフデザインに関する必要性の実感不足があると考えられる。
- また、ライフデザイン支援が、会社からの「押し付け」と思われないような丁寧な説明や工夫が必要と考えられる。
- 現時点では費用対効果を示す明確なデータの蓄積がないため、企業主体の取組では優先順位が後回しになる可能性がある。

中小企業

	課題と背景要因
1 当事者（従業員）	• 学校や家庭でライフデザインについて触れることが少なかったことや、ライフイベントについて話題にすることが少ないことを背景に、ライフデザインが自分ごとになりにくい。 • アプリやシステム利用への心理的・操作上の抵抗がある。（IT活用に慣れていない層はアプリ等に個人情報を入れたくない心理がある。）
2 周辺・周囲（上司・同僚）	• プライバシーへの配慮が不足していたり、強制感のある周知方法であると、支援が「押し付け」と受け取られる懸念がある。 • PC未保有の勤務層や休職者など、社用端末をもっていない層には情報が届きづらい。
3 支援者（人事部門）	• 費用対効果を示す定量指標が不十分で導入に伴う社内合意が得にくい。（KPI設計やデータ収集体制が未整備で、離職低下等の効果が現れるまでに時間差がある。） • 既存社内ツールの管理と重複すると、担当者の業務が増加し、運用負荷（連携・報告・窓口対応）が増える。
4 支援者（自治体、国）	• 中小企業向けの実務的指針等のガイドラインや効果測定のためのKPIが不足している。 • 社会全体での金融リテラシー底上げが必要である。

6. 本事業から見えた課題と示唆 1)ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた示唆 イ)あるべき姿

- ライフデザイン支援の普及・拡大のためのあるべき姿としては、会社が個人を自然に後押しする環境を構築することが望ましく、そのためにはライフデザインを始めるハードル・続けるハードルを継続的に下げていくことが必要と考えられる。
- また、中小企業の取組を促し、KPIにもとづく運用を進めやすくするためには、自治体や国においてライフデザインの基礎理解を目的としたガイドライン等の整備を進めることが望まれる。

中小企業

	あるべき姿
1 当事者（従業員）	• ゴール：自分ごと化された人生設計の機会にいつでも触れられ、継続的に支援されること。 • 原則：低負担・低心理的ハードル（試用化・匿名性）と、行動に結びつく具体的な示唆（次の一手）を提示すること。 • 期待成果：個人が自律的に資産形成についての理解を進め、ライフデザインに基づく行動が定着すること。
2 周辺・周囲（上司・同僚）	• ゴール：職場が支援を自然に後押しする環境となり、推進が個人負担にならないこと。 • 原則：簡便、かつ、非強制で匿名化された周知手段が標準化されていること。 • 期待成果：推進の負荷が低いまま参加動機が高まり、職場での情報共有が自然に行われること。
3 支援者（人事部門）	• ゴール：人材施策として組織的に組み込まれ、定量的に効果を検証・拡張できる仕組みとなること。 • 原則：KPIに基づく運用（導入→定着→効果測定）を行うこと。 • 期待成果：採用・定着等の人事上の中長期的成果と紐付けられる投資として確立すること。
4 支援者（自治体、国）	• ゴール：中小企業が導入しやすい共通ルールと支援施策を整備し、全国的な普及を促進すること。 • 原則　：標準ガイドライン・プラットフォーム、導入補助・公的教材を提供すること。 • 期待成果：規模・地域差を抑えた導入促進と社会全体の金融リテラシー向上につながる環境が整備されること。

6. 本事業から見えた課題と示唆 1)ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた示唆 ウ)実現に向けた方向性

- ライフデザイン支援の普及・拡大の実現に向けては、従業員が定期的にライフデザインに触れられるプラットフォームを各企業に備えていくことが有用と考えられる。
- 官民連携のあり方として、ライフデザインリテラシーを向上させていくための認定制度等を創設することも一案と考えられる。

中小企業

	実現に向けた方向性
1 当事者（従業員）	• 重点施策：まず「触れる」導線（短尺コンテンツなど）を提供し、日常継続利用に繋げる。 • デザイン要件：プライバシー保護を前提に、日常的な継続利用が実現されるよう、小刻みな成功体験を提供する。 • 成果観測：個人の初期行動（初期登録率など）を短期KPIとする。
2 周辺・周囲（上司・同僚）	• 重点施策：管理者負荷を抑えるツール（テンプレ、短文周知、匿名化されたチーム指標）とする。 • 運用要件：勤務形態に配慮した多様な実施方法（勤務時間内の短セッション、掲示・紙対応）を用意しておく。 • 改善手法：A/Bテスト等で周知・参加喚起手法を継続して改善していく。
3 支援者（人事部門）	• 実行戦略：社内通達と連動させるなど、発信タイミングを工夫し、コンテンツの利用率向上を図る。 • ガバナンス：機微情報の取扱いを明文化した運用ルールを整備する。 • 資金設計：初期は低コスト/トライアル中心とし、導入時のハードルを下げる。
4 支援者（自治体、国）	• 政策レバー：KPI案の公表のほか、導入補助・専門家派遣等による初動支援を行う。 • 制度対応：ライフデザイン支援の認定制度（例：健康経営認定制度）を創設する。 • 社会基盤：地域団体と連携して金融リテラシー教育を強化するとともに、公的教材・成功事例等を公開する。

6. 本事業から見えた課題と示唆　2)終わりに

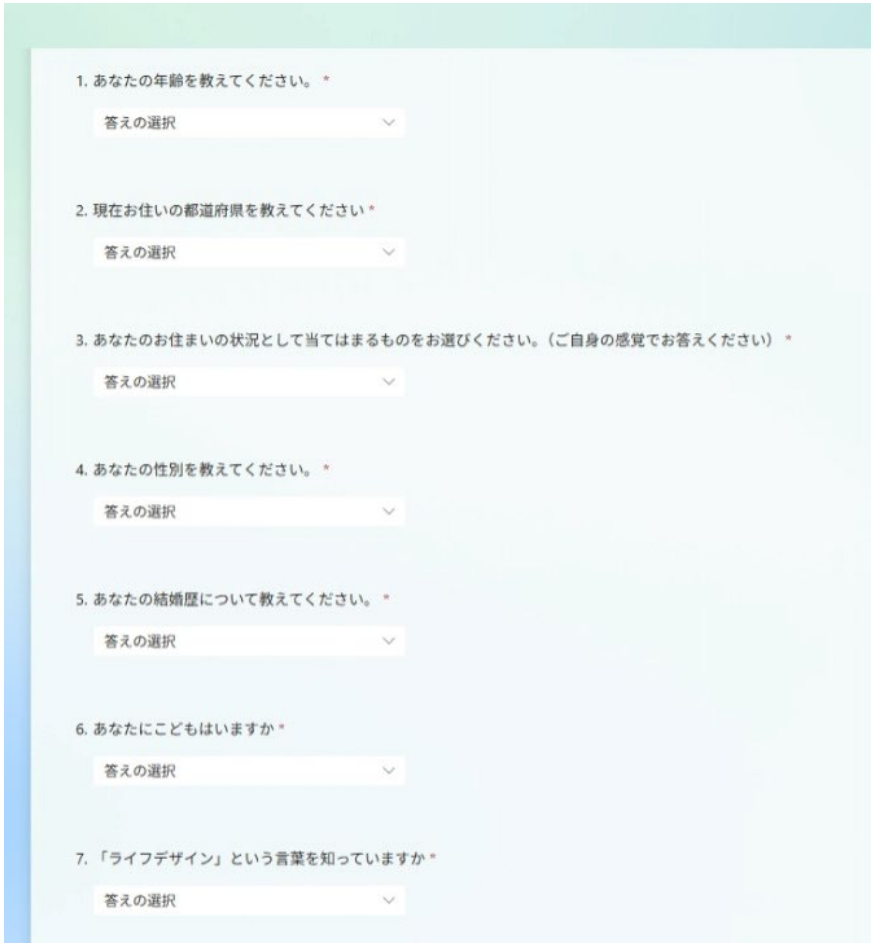
- 当社が実証した「アプリを通じたライフデザイン支援」については、本実証事業で得られた示唆をもとに、今後、利用者の拡大と継続的な利用を図り、若年社会人の安定的な就労継続やキャリア形成に寄与できる基盤を構築していくことを展望している。

課題認識	• 金融機関を中心に、金融教育・情報提供を目的としたスマートフォンアプリの提供が進展している一方で、アプリ提供のみでは利用開始・継続に至らないケースが多い。 • 特に企業を通じた提供においては、従業員の関心度にばらつき（積極層／慎重層／無関心層）が存在し、自発的行動に依存した施策では無関心層への到達が困難である。
実証事業における取り組みと得られた示唆	• 本実証では、金融教育アプリを単体で提供するのではなく、企業の職域という特性を活かした多層的な働きかけを実施した。 • その結果、「人を介した説明・対話」と「アプリ」というデジタル基盤を組み合わせることが、利用促進・理解促進において重要であるとの示唆を得た。
今後の展望	• 当初目的として、金融リテラシーの底上げや将来設計（ライフデザイン）への意識喚起を通じて、若年社会人の安定的な就労継続やキャリア形成に寄与することも目指していたが、実証開始からの期間が短かったこともあり、それらの波及効果についての定量的な効果検証は今後の課題となった。 • 今後は、利用者の拡大と継続的な活用を通じ、働く人が安心して生活設計・就労に向き合える基盤形成に資する取り組みとして検証を継続していく。

参考資料

1. アンケート調査票
2. アンケート調査結果

アンケート調査票（事前調査）1/2



1. あなたの年齢を教えてください。 *

答えの選択

2. 現在お住いの都道府県を教えてください *

答えの選択

3. あなたのお住まいの状況として当てはまるものをお選びください。（ご自身の感覚でお答えください） *

答えの選択

4. あなたの性別を教えてください。 *

答えの選択

5. あなたの結婚歴について教えてください。 *

答えの選択

6. あなたにこどもはいますか *

答えの選択

7. 「ライフデザイン」という言葉を知っていますか *

答えの選択



8. マネマが「ライフデザイン」に初めて取り組む機会ですか *

※ライフデザインとは、「将来のライフイベント（進学、就職、結婚・育児、住宅の確保、資産の形成、老後など）について、自分の価値観に基づいた選択ができるように、自分の考え方や見通しを整理すること」です。

答えの選択

9. 自分のライフデザインは明確だと感じますか *

答えの選択

10. 自分の将来に対する不安を感じていますか *

答えの選択

11. 自分の将来には、いろいろな選択肢や可能性があると思いますか *

答えの選択

12. 「自分の理想とする将来」に向けて行動したい気持ちがありますか *

答えの選択

13. 日々の生活の中で満足感や幸福感を感じていますか *

答えの選択

14. 自分の働く理由は明確だと思いますか *

答えの選択

アンケート調査票（事前調査）2/2



アンケート調査票（事後調査）1/5

* 必須

セクション 1

【年齢、お住まい等についてお伺いします】

1. あなたの年齢を教えてください。 *

答えの選択

2. 現在お住いの都道府県を教えてください *

答えの選択

3. あなたのお住まいの状況として当てはまるものをお選びください。（ご自身の感覚でお答えください） *

答えの選択

4. あなたの性別を教えてください。 *

答えの選択

5. あなたの結婚歴について教えてください。 *

答えの選択

6. あなたにこどもはいますか *

答えの選択

セクション 2

【マネマのご利用に関する内容をお伺いします】

7. これまでマネマを利用した回数を教えてください *

※回数を選択いただくと次の質問が表示されます。 なお、まだマネマをご利用されていない方は「まだ利用していない」を選択してください。その方はセクション３の質問へ遷移します。

10回以上

8. これまでマネマで利用したコンテンツをすべてお選びください（複数選択可） *

- [ ] 確定拠出年金（DC）ページ
- [ ] コラム記事
- [ ] 動画
- [ ] セミナー
- [ ] おまかせ家計簿
- [ ] ライフプランシミュレーション
- [ ] その他

アンケート調査票（事後調査）2/5

9. マネマで得られたライフデザインの情報についてすべてお選びください（複数選択可） *

- [ ] 【ライフ】ライフイベント
- [ ] 【ライフ】育児
- [ ] 【ライフ】私生活の充実
- [ ] 【ライフ】介護
- [ ] 【ライフ】ウェルビーイングの向上
- [ ] 【ライフ】妊活・妊娠・出産
- [ ] 【キャリア】ライフとキャリアの両立
- [ ] 【キャリア】リスキリング・学びなおし
- [ ] 【ファイナンス】ファイナンシャルプラン
- [ ] 【ファイナンス】税制・制度
- [ ] 【ファイナンス】資産形成・資産運用
- [ ] 【ファイナンス】公的な経済支援
- [ ] 【スキル】レジリエンス、課題解決力、情報収集能力、向上心・探求心、ホープ（未来志向で今を考える力）
- [ ] 【スキル】自律した自身のライフに対する総合的なプランニング・デザインスキル
- [ ] その他

10. マネマを通じて「ライフデザイン」への理解は深まりましたか *

答えの選択

11. マネマを通じて自分のライフデザインは明確になったと感じますか *

答えの選択

12. マネマを通じて将来に対する不安が軽減したと感じますか *

答えの選択

13. マネマを通じて自分の将来の選択肢が増えたと感じますか *

答えの選択

14. マネマを通じて「自分の理想とする将来」の実現に向けて行動したいと思いましたか *

答えの選択

15. マネマを通じて日々の生活の中での満足感や幸福感が向上したと感じますか *

答えの選択

16. マネマを通じて自分の働く理由がより明確になったと感じますか *

答えの選択

17. マネマを通じて自分は職場や仕事に対して前向きに取り組む意欲が高まった（エンゲージメントが高まった）と感じますか *

答えの選択

18. マネマの満足度はいかがでしたか *

答えの選択

19. マネマに関して、良かった点や改善してほしい点、今後の要望などがあれば自由にご記入ください（任意）

回答を入力してください

アンケート調査票（事後調査）3/5

セクション 3

【ライフデザインについてお伺いします】※ライフデザインとは、「将来のライフイベント（進学、就職、結婚・育児、住宅の確保、資産の形成、老後など）について、自分の価値観に基づいた選択ができるように、自分の考え方や見通しを整理すること」です。

20. あなたが理想的だと思うプログラムの提供形態を教えてください（複数選択可） *

※プログラムとは、特定の目的を達成するために計画された一連の手順や実行内容を指します。

- [ ] ワークショップ
- [ ] セミナー・講演
- [ ] コーチング
- [ ] ヒアリング・カウンセリング
- [ ] eラーニング
- [ ] 自己学習（eラーニング除く）
- [ ] 模擬体験・シミュレーション
- [ ] その他

21. あなたが理想的だと思うライフデザインのプログラムの回数を教えてください。（プログラム開始日から終了日までの回数を選択してください。） *

【ご参考】例えば提供形態を「セミナー・講演」とした場合、あるプログラムの完了までに必要な受講回数は何回が理想なのか、というイメージでご回答ください。

答えの選択

22. あなたが理想的だと思うライフデザインのプログラムの期間を教えてください。（プログラム開始日から終了日までの期間を選択してください。） *

【ご参考】例えば提供形態を「ヒアリング・カウンセリング」とした場合、あるプログラムの完了までの期間はどれくらいが理想なのか、というイメージでご回答ください。

答えの選択

アンケート調査票（事後調査）4/5

23. あなたが理想的だと思うプログラムで得たいライフデザインの情報についてすべてお選びください（複数選択可） *

- [ ] 【ライフ】ライフイベント
- [ ] 【ライフ】生き方の多様性
- [ ] 【ライフ】育児
- [ ] 【ライフ】ライフスタイル・暮らし方
- [ ] 【ライフ】こころとからだの健康
- [ ] 【ライフ】家事
- [ ] 【ライフ】私生活の充実
- [ ] 【ライフ】出会い・結婚
- [ ] 【ライフ】介護
- [ ] 【ライフ】ウェルビーイングの向上
- [ ] 【ライフ】妊活・妊娠・出産
- [ ] 【キャリア】ライフとキャリアの両立
- [ ] 【キャリア】社内でのキャリアプラン・キャリアパス
- [ ] 【キャリア】働き方の多様性
- [ ] 【キャリア】社外でのキャリアプラン・キャリアパス
- [ ] 【キャリア】リスキリング・学びなおし
- [ ] 【ファイナンス】ファイナンシャルプラン
- [ ] 【ファイナンス】税制・制度
- [ ] 【ファイナンス】資産形成・資産運用
- [ ] 【ファイナンス】公的な経済支援
- [ ] 【スキル】自己認知、自己理解、自己肯定、自己決定力、自己効力感
- [ ] 【スキル】レジリエンス、課題解決力、情報収集能力、向上心・探求心、ホープ（未来志向で今を考える力）
- [ ] 【スキル】アンガーマネジメント、モチベーションマネジメント、継続力・持続力
- [ ] 【スキル】協調性・関係構築力、他者受容性、コミュニケーションスキル
- [ ] 【スキル】デジタルツール活用スキル、プロジェクト管理スキル
- [ ] 【スキル】自律した自身のライフに対する総合的なプランニング・デザインスキル
- [ ] その他

アンケート調査票（事後調査）5/5

24. ライフデザインは自分にとって意味があると思いますか *

答えの選択

25. ライフデザインを友人や家族にも勧めたいと思いますか *

答えの選択

26. 今後もライフデザインに関するプログラムが企業や団体等から提供された場合に取組みたいと思いますか *

答えの選択

27. 今後もライフデザインに関するプログラムに個人的に取組みたいと思いますか *

答えの選択

28. ライフデザインプログラムを通して得た気付き等があれば教えてください（任意）

回答を入力してください

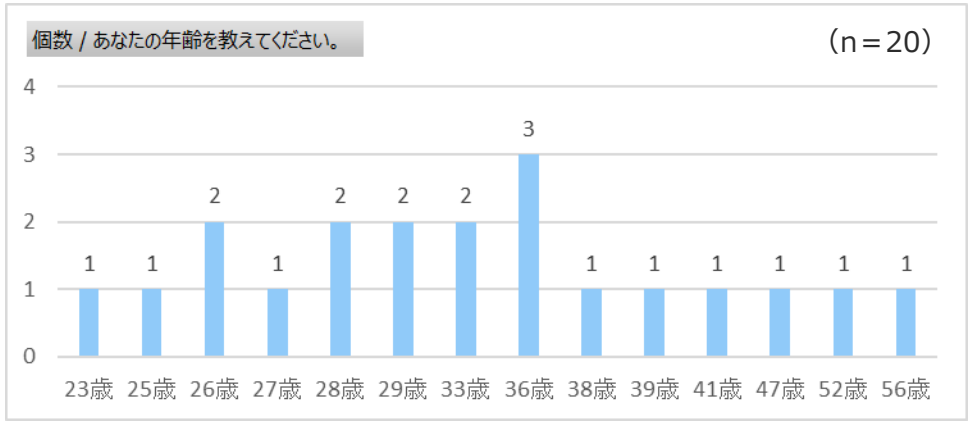
戻る　送信

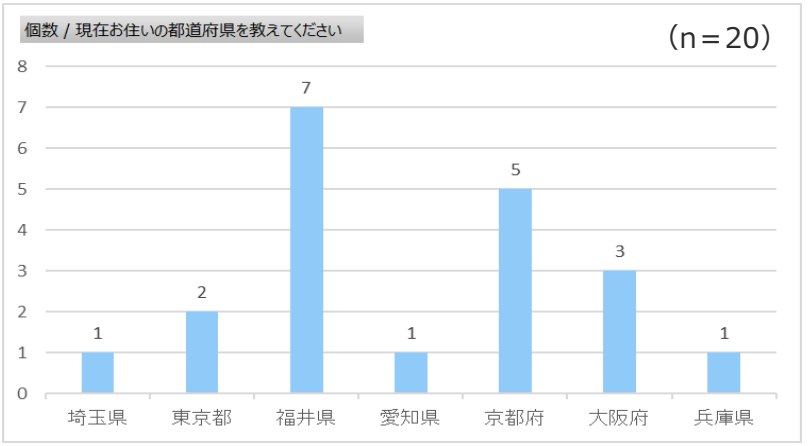
ページ 3/3

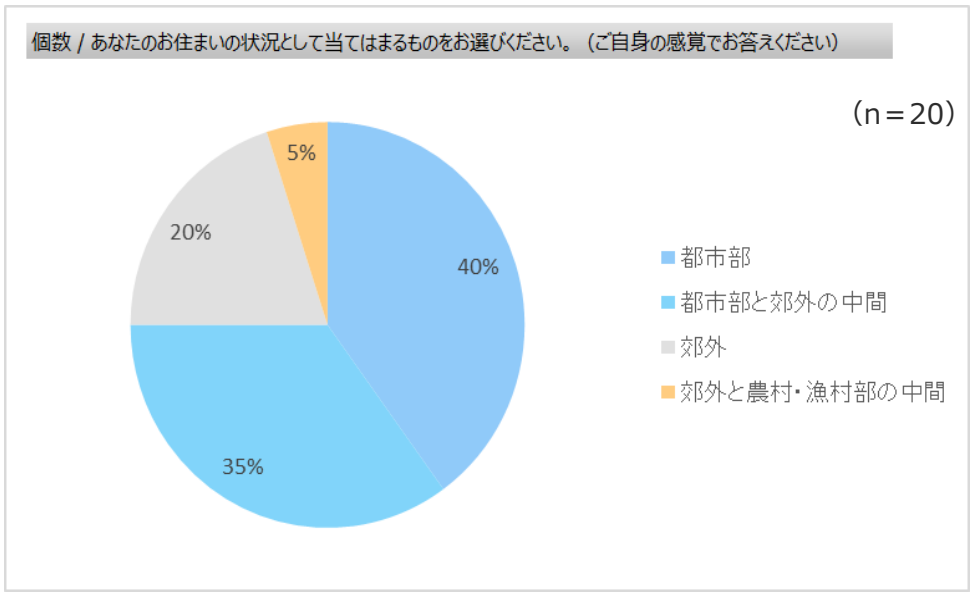
参考資料

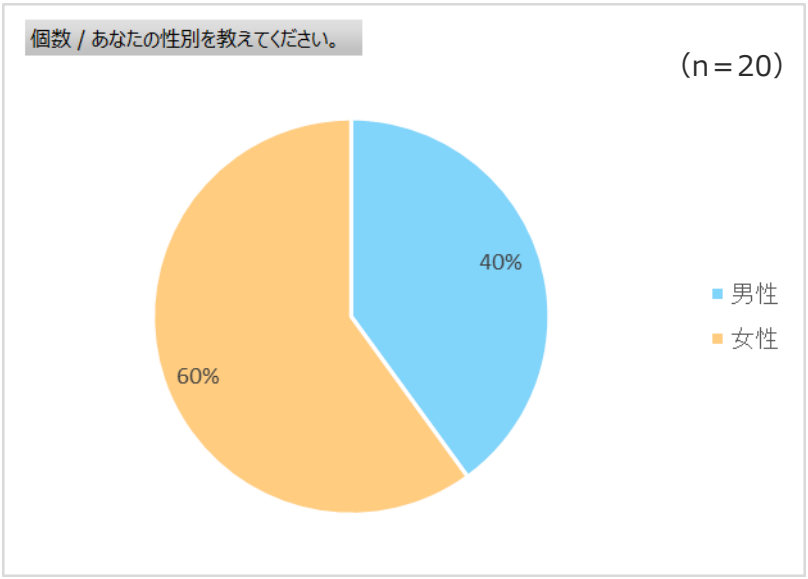
1. アンケート調査票
2. アンケート調査結果

アンケート調査結果（事前調査）1/5

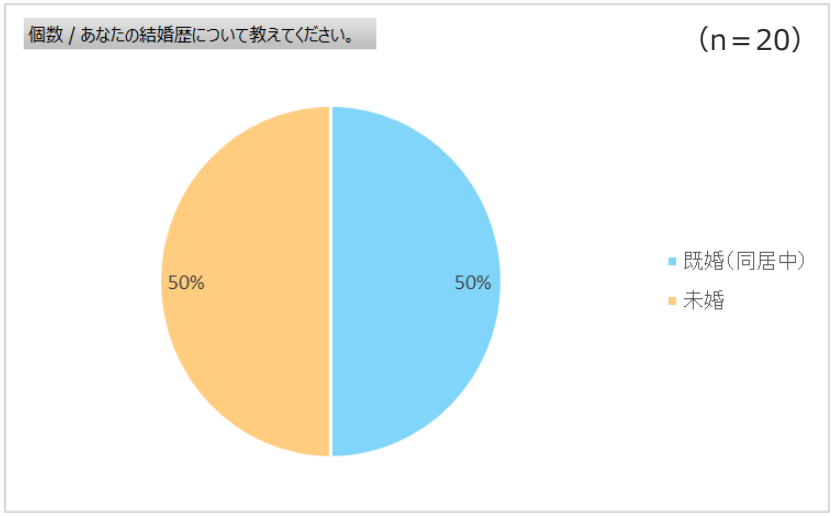


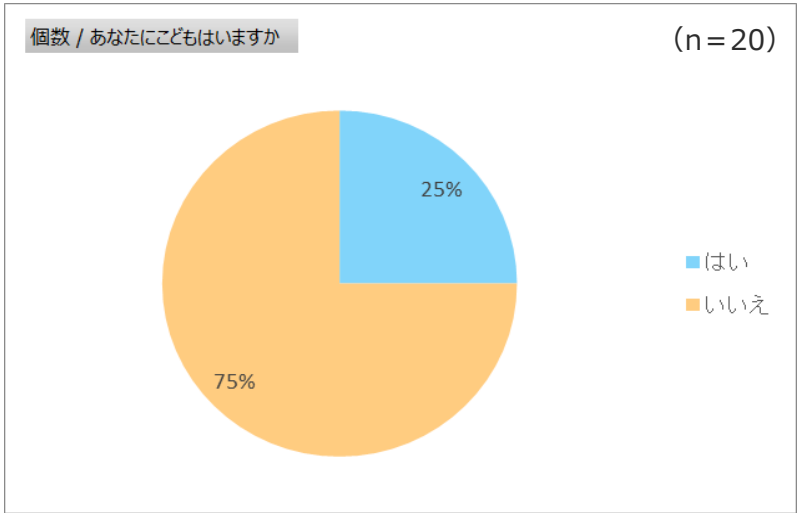


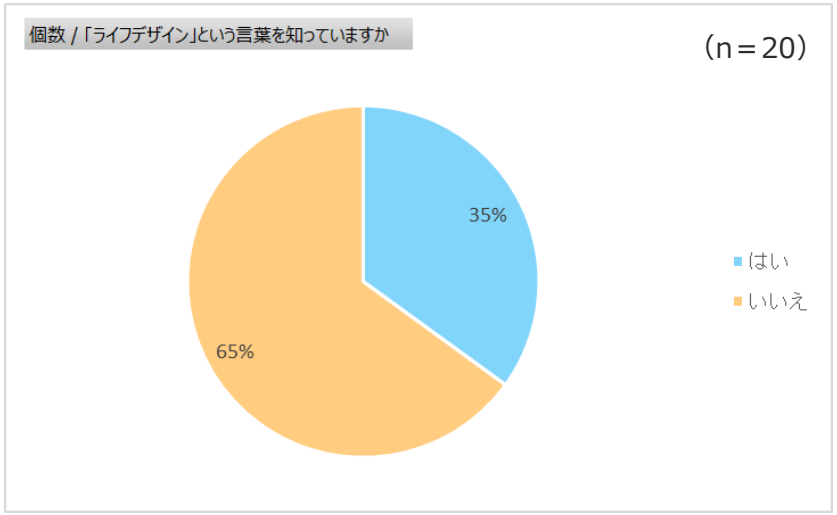


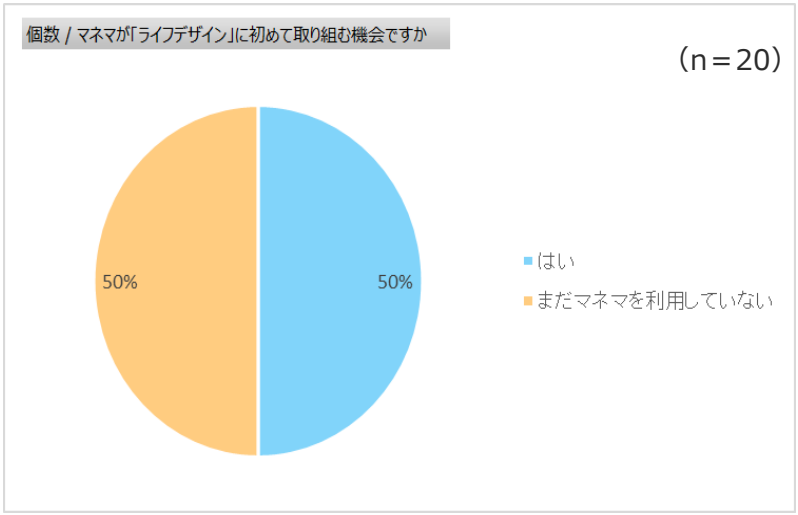


アンケート調査結果（事前調査）2/5

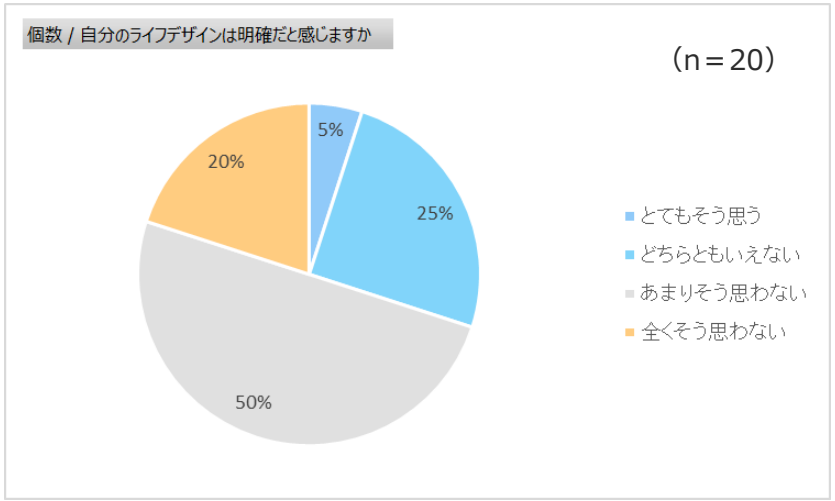


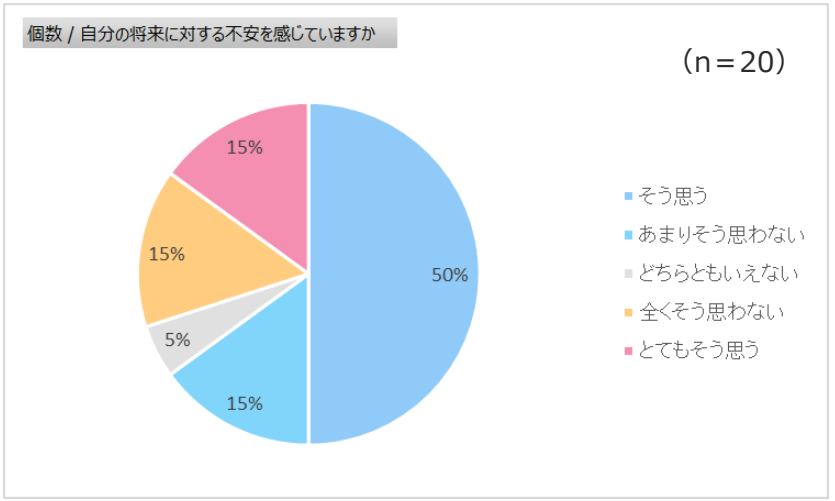


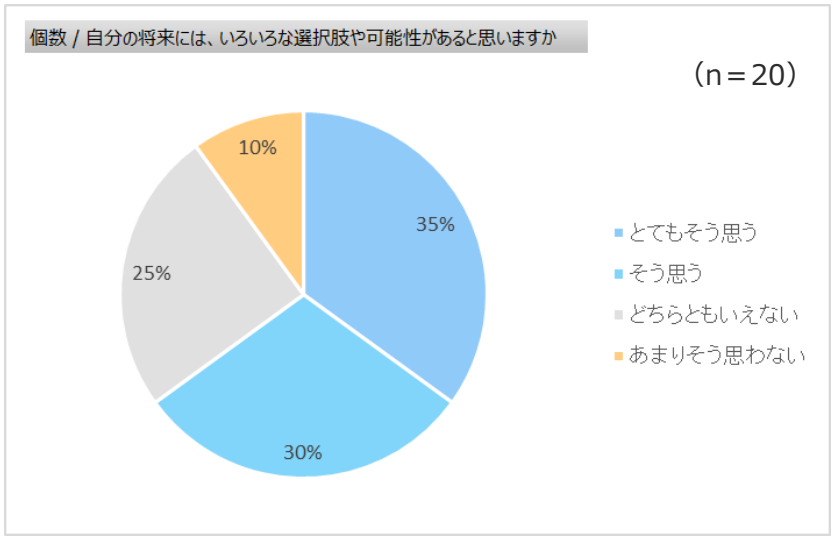


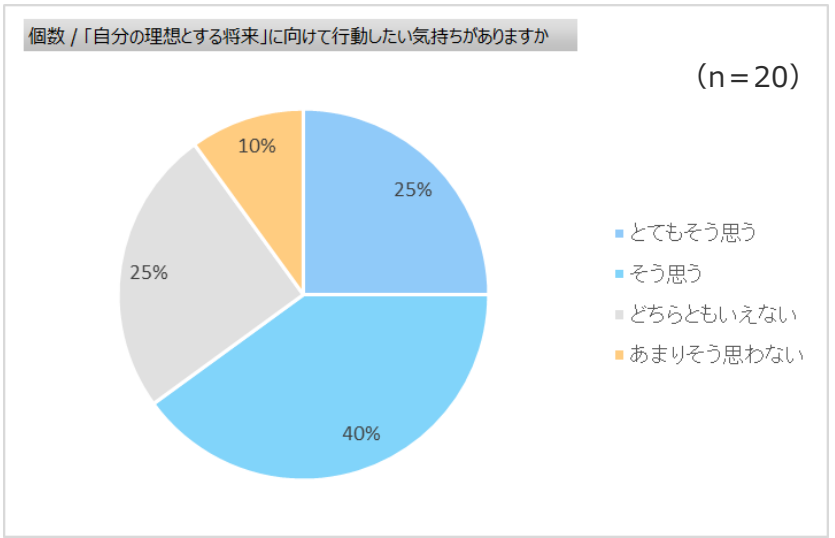


アンケート調査結果（事前調査）3/5





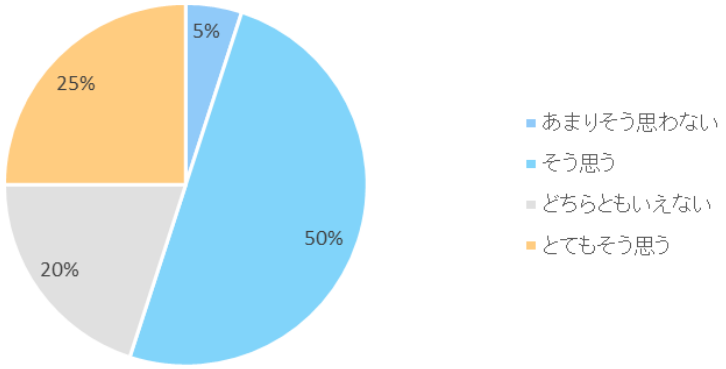




アンケート調査結果（事前調査）4/5

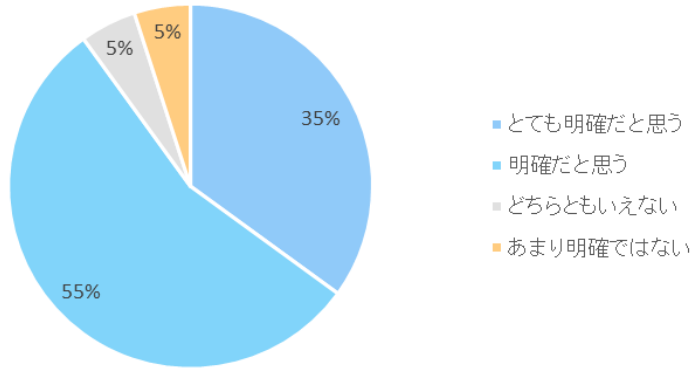
個数 / 日々の生活の中で満足感や幸福感を感じていますか

（n＝20）



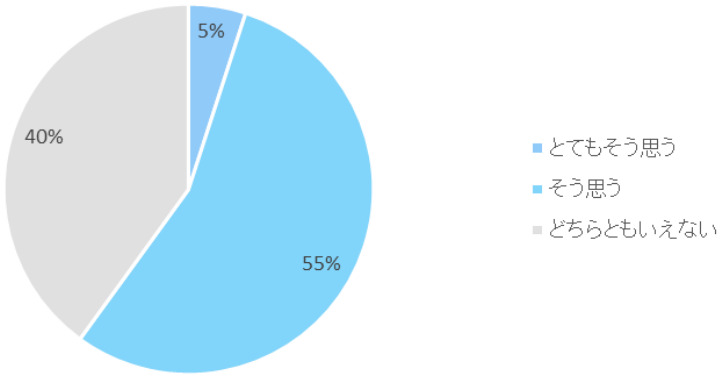
個数 / 自分の働く理由は明確だと思いますか

（n＝20）



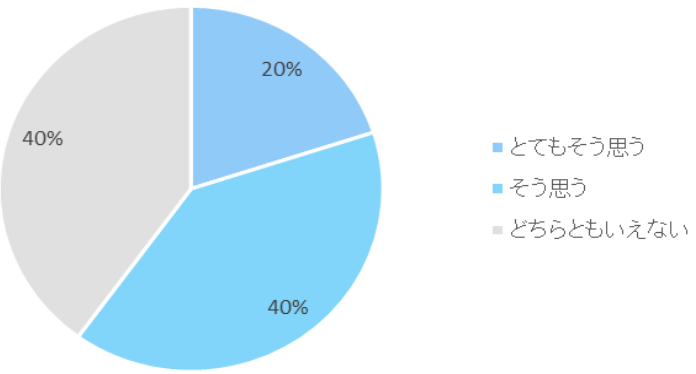
個数 / 自分は職場や仕事に対して前向きに取り組んでいる（職場へのエンゲージメントが高い）と感じますか

（n＝20）

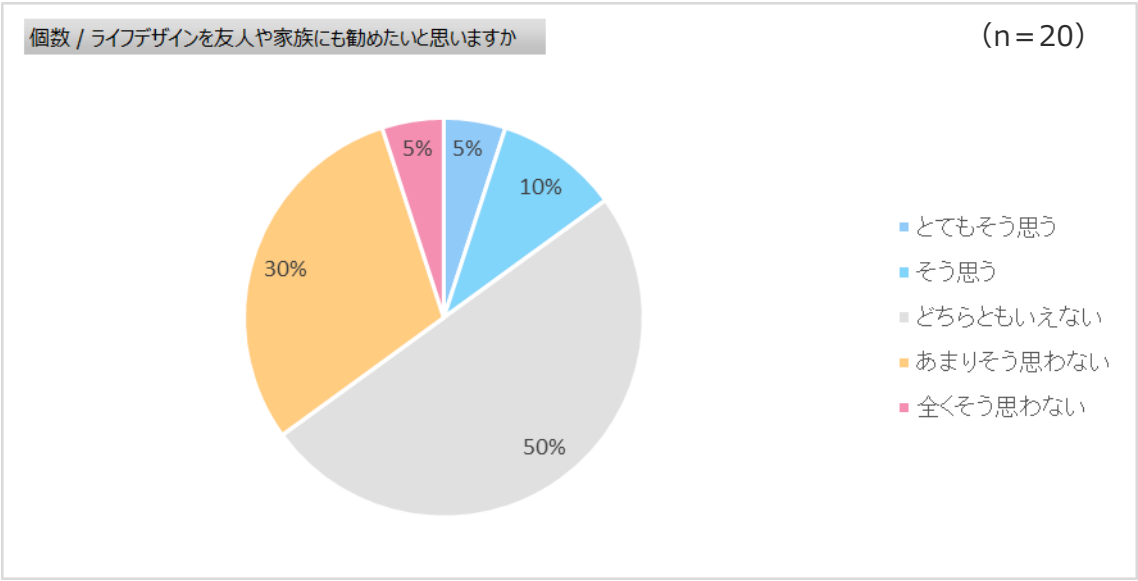


個数 / ライフデザインは自分にとって意味があると思いますか

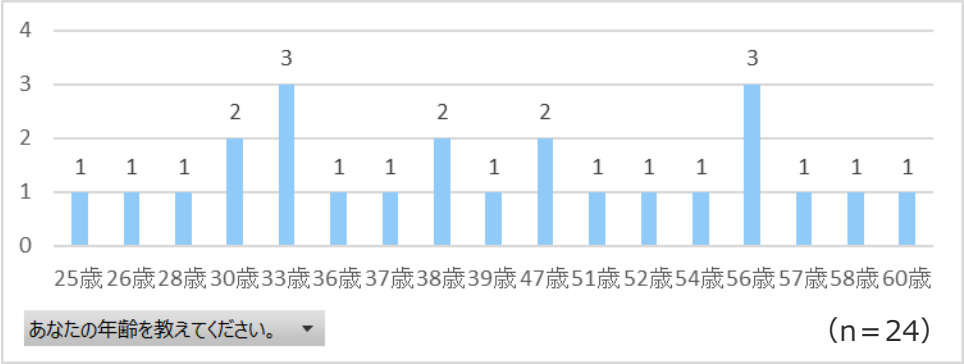
（n＝20）

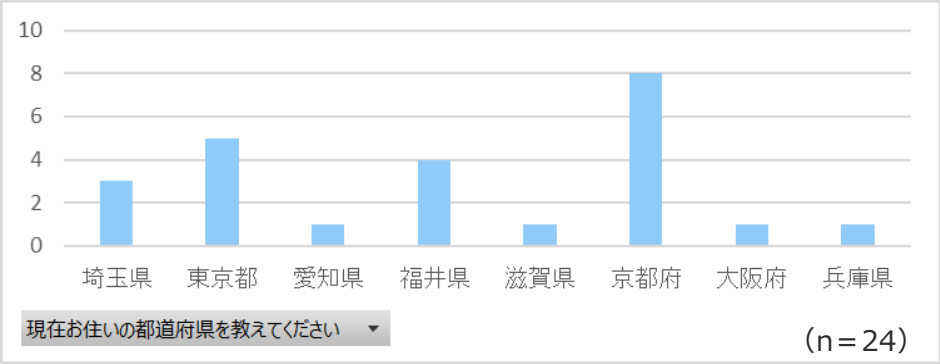


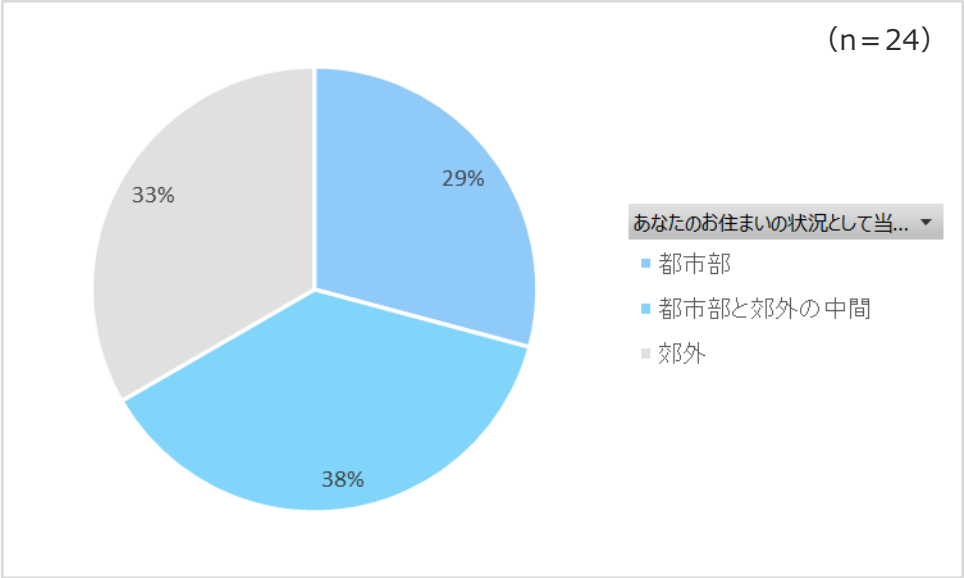
アンケート調査結果（事前調査）5/5

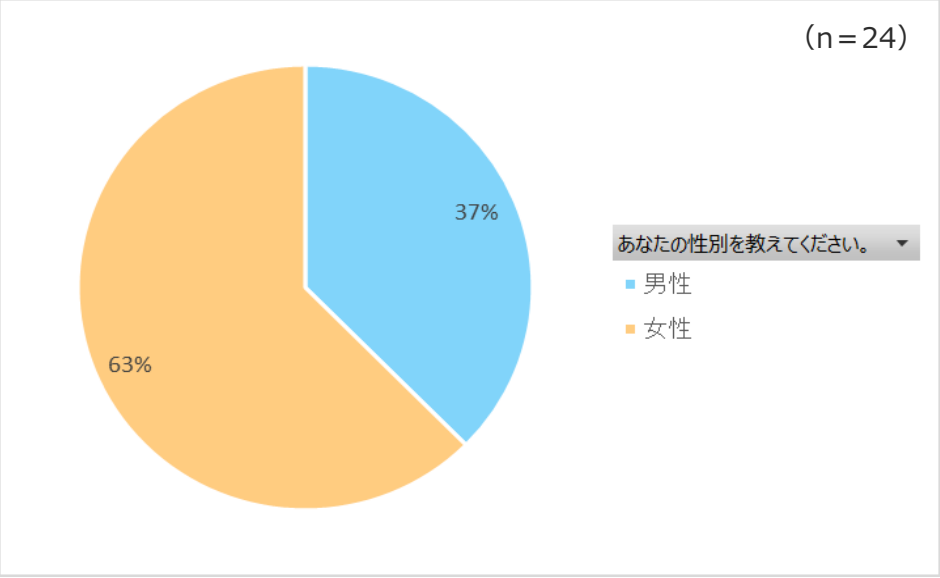


アンケート調査結果（事後調査）1/7

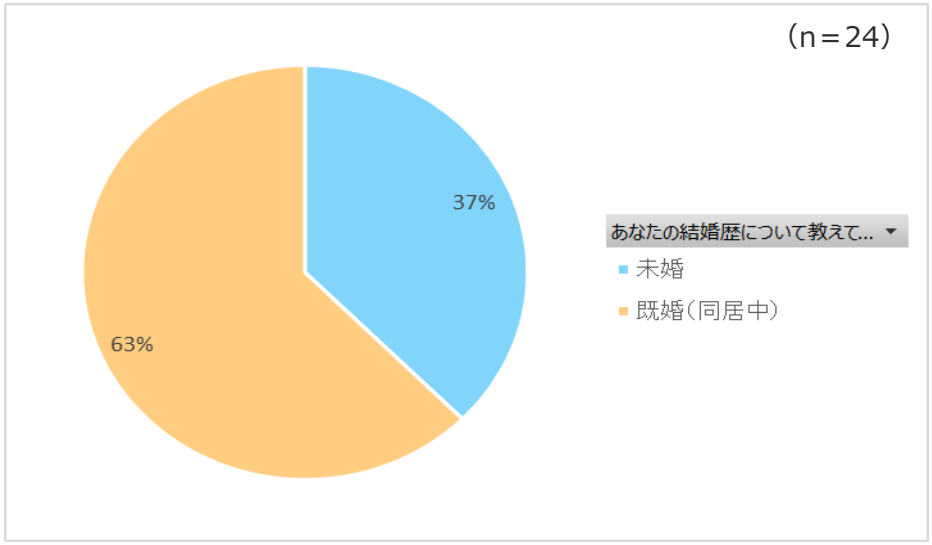


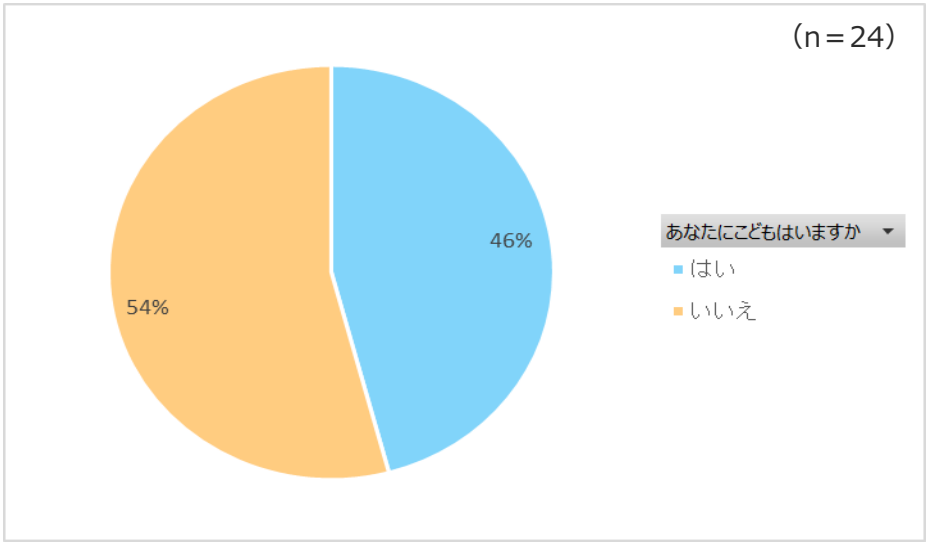


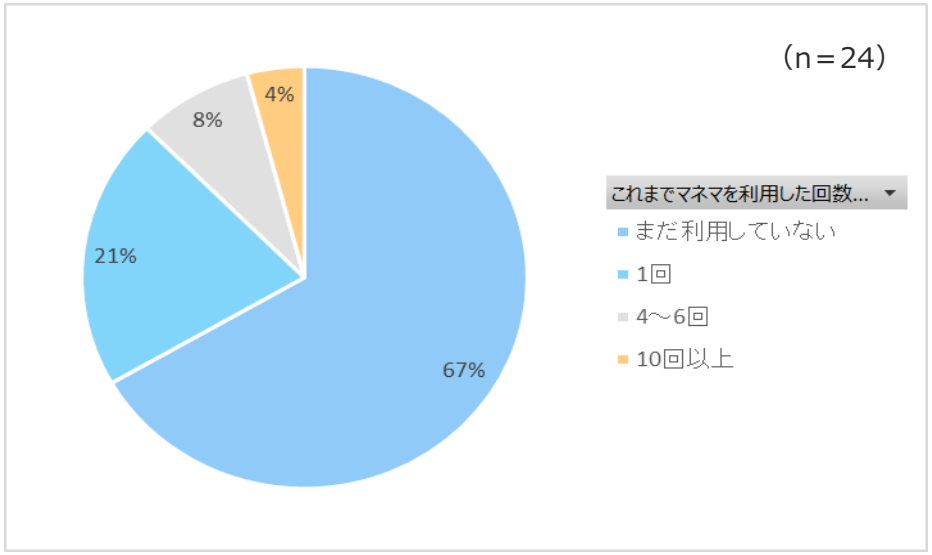


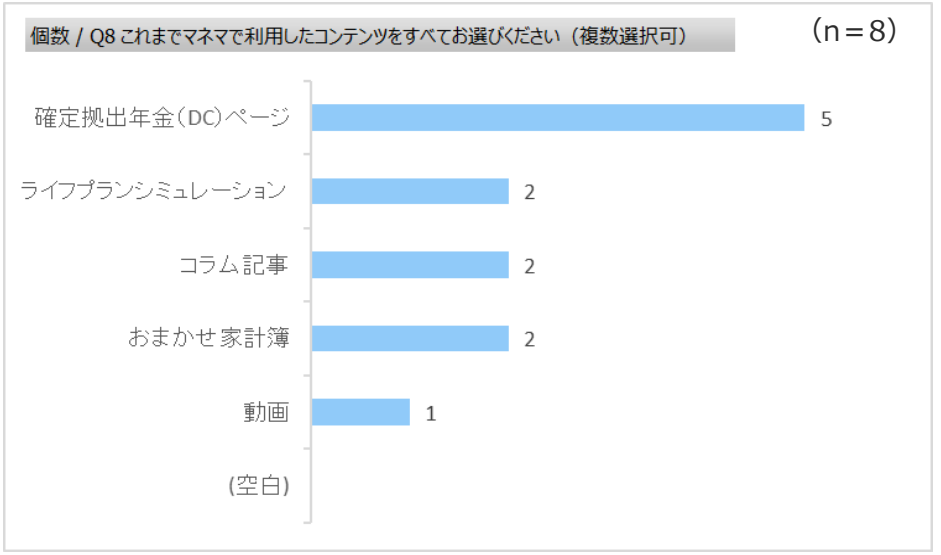


アンケート調査結果（事後調査）2/7



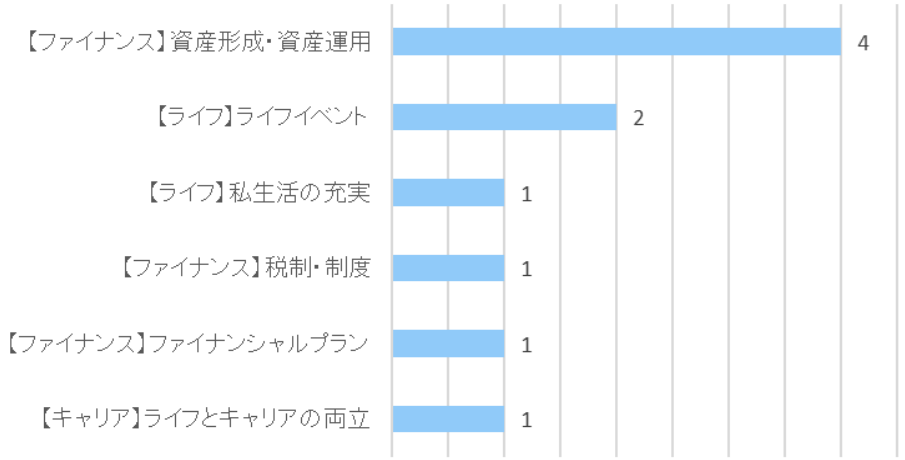




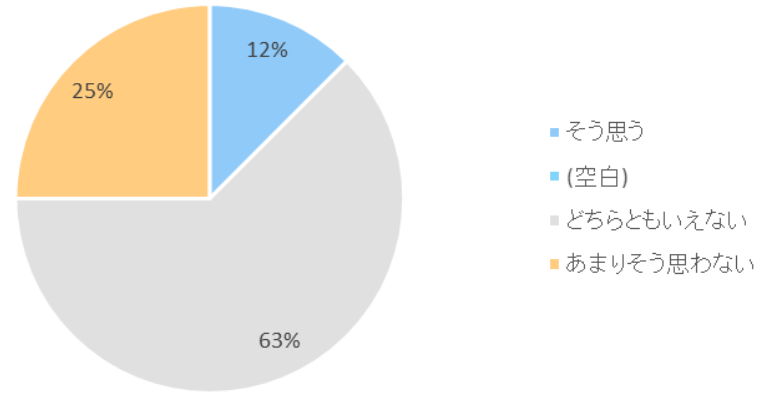


アンケート調査結果（事後調査）3/7

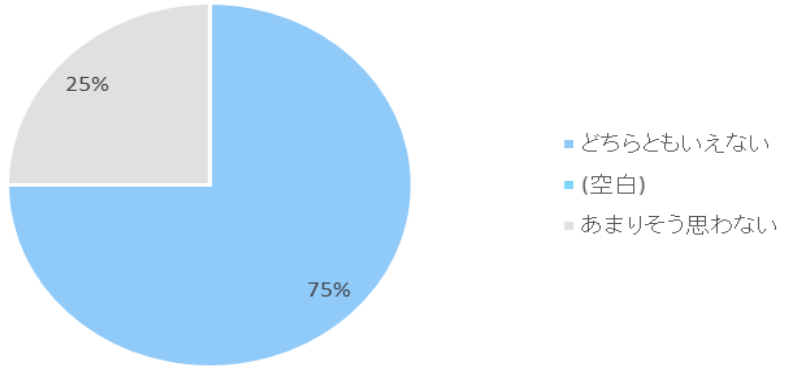
個数 / Q9 マネマで得られたライフデザインの情報についてすべてお選びください（複数選択可）　(n＝8)



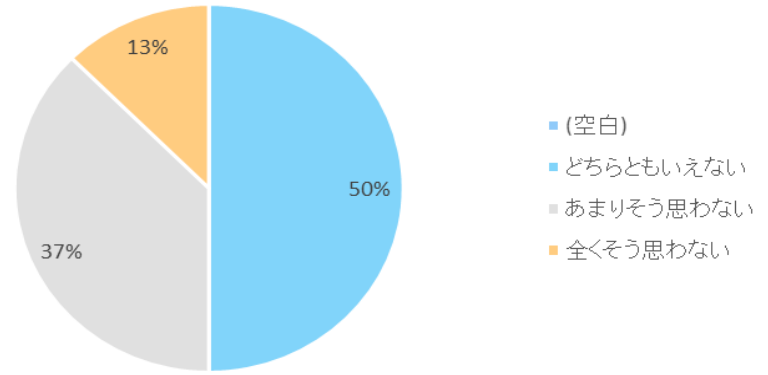
個数 / マネマを通じて「ライフデザイン」への理解は深まりましたか　(n＝8)



個数 / マネマを通じて自分のライフデザインは明確になったと感じますか　(n＝8)

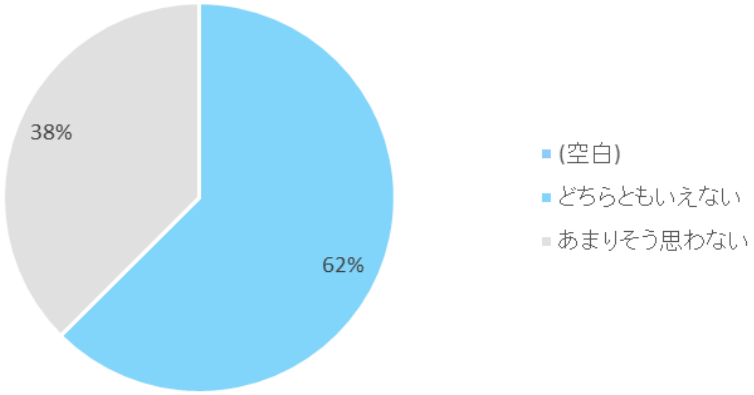


個数 / マネマを通じて将来に対する不安が軽減したと感じますか　(n＝8)

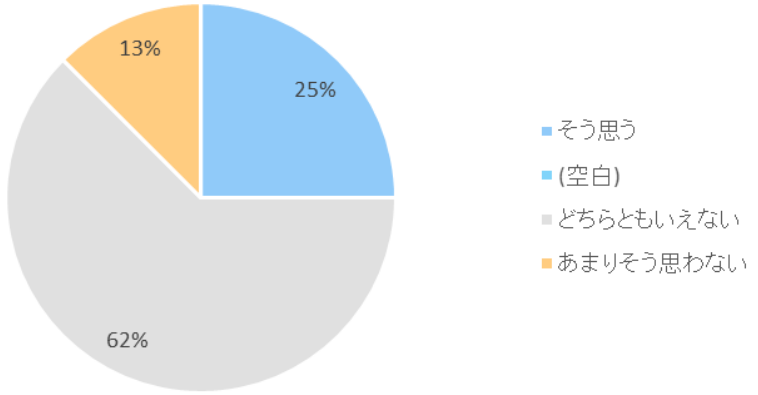


アンケート調査結果（事後調査）4/7

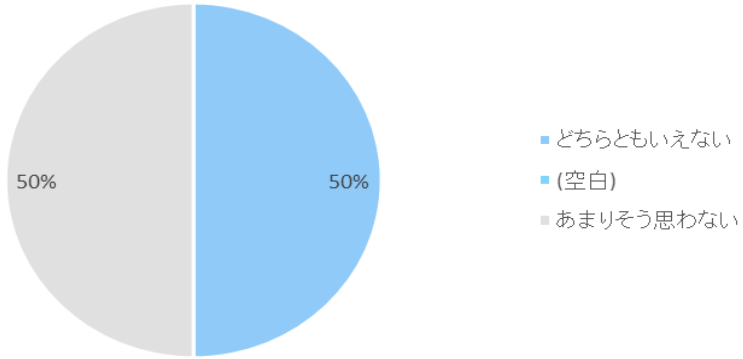
個数 / マネマを通じて自分の将来の選択肢が増えたと感じますか　（n＝8）



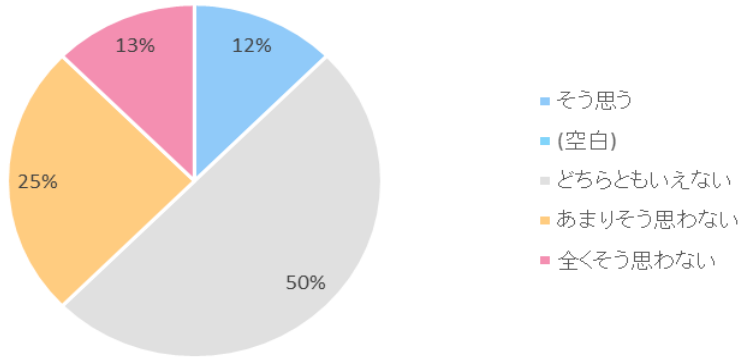
個数 / マネマを通じて「自分の理想とする将来」の実現に向けて行動したいと思いましたか　（n＝8）



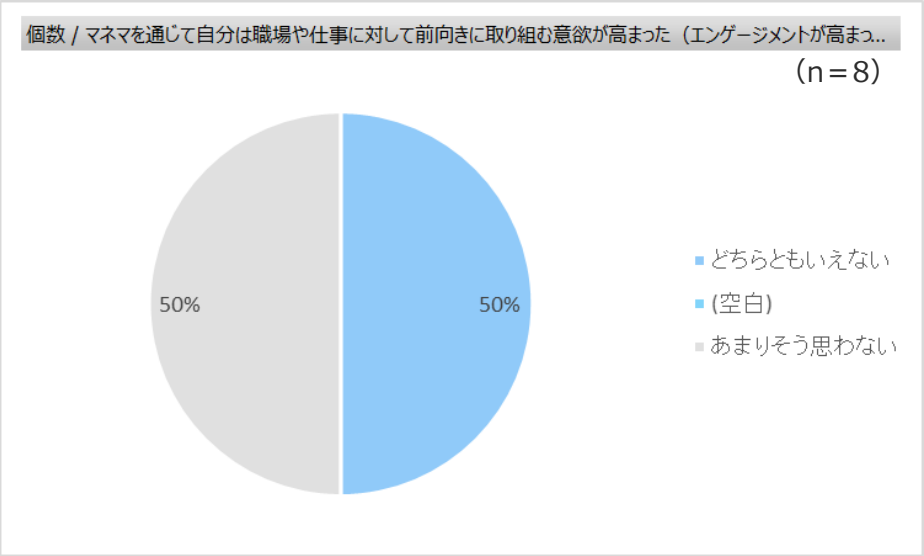
個数 / マネマを通じて日々の生活の中での満足感や幸福感が向上したと感じますか　（n＝8）

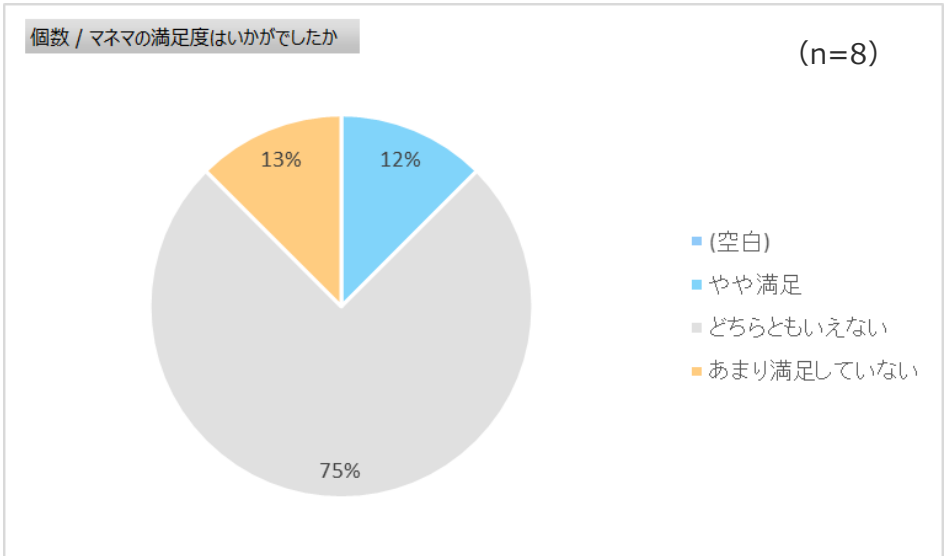


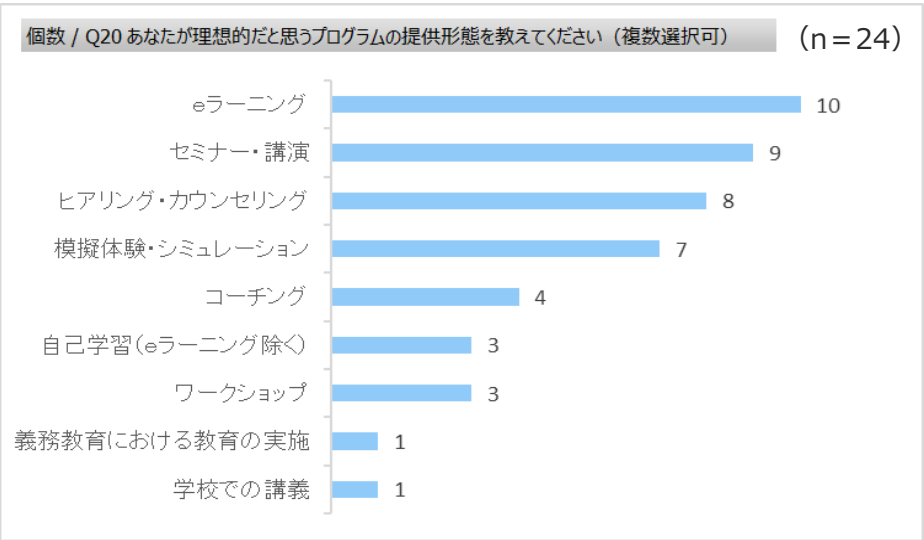
個数 / マネマを通じて自分の働く理由がより明確になったと感じますか　（n＝8）

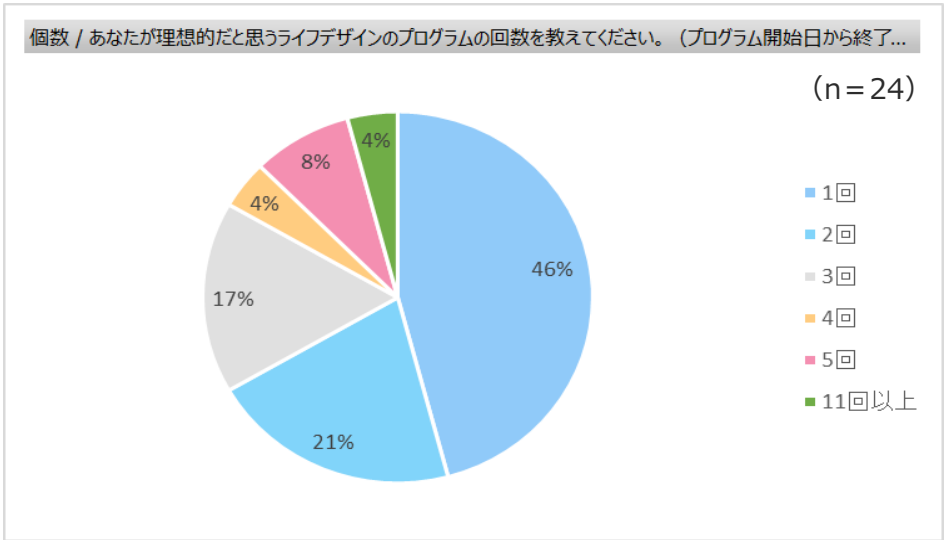


アンケート調査結果（事後調査）5/7

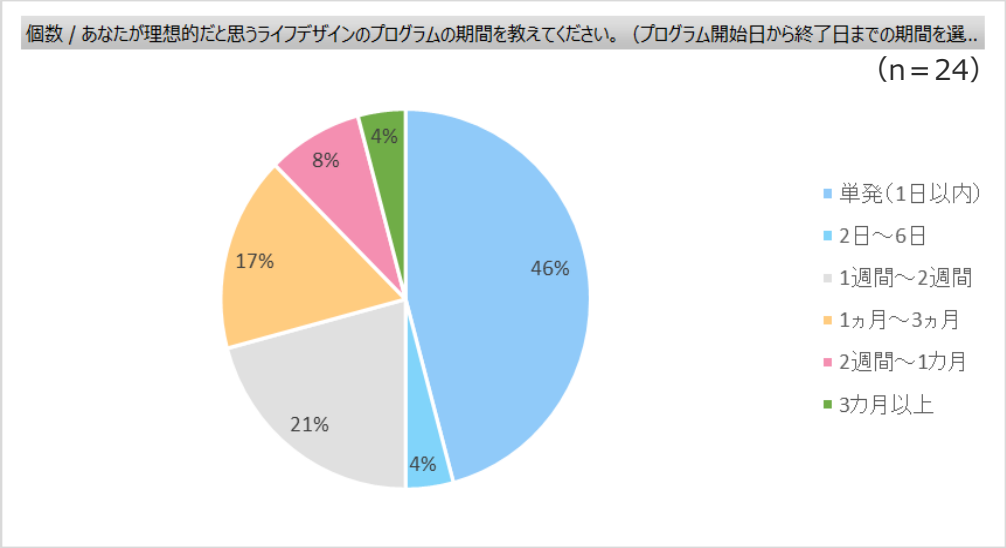


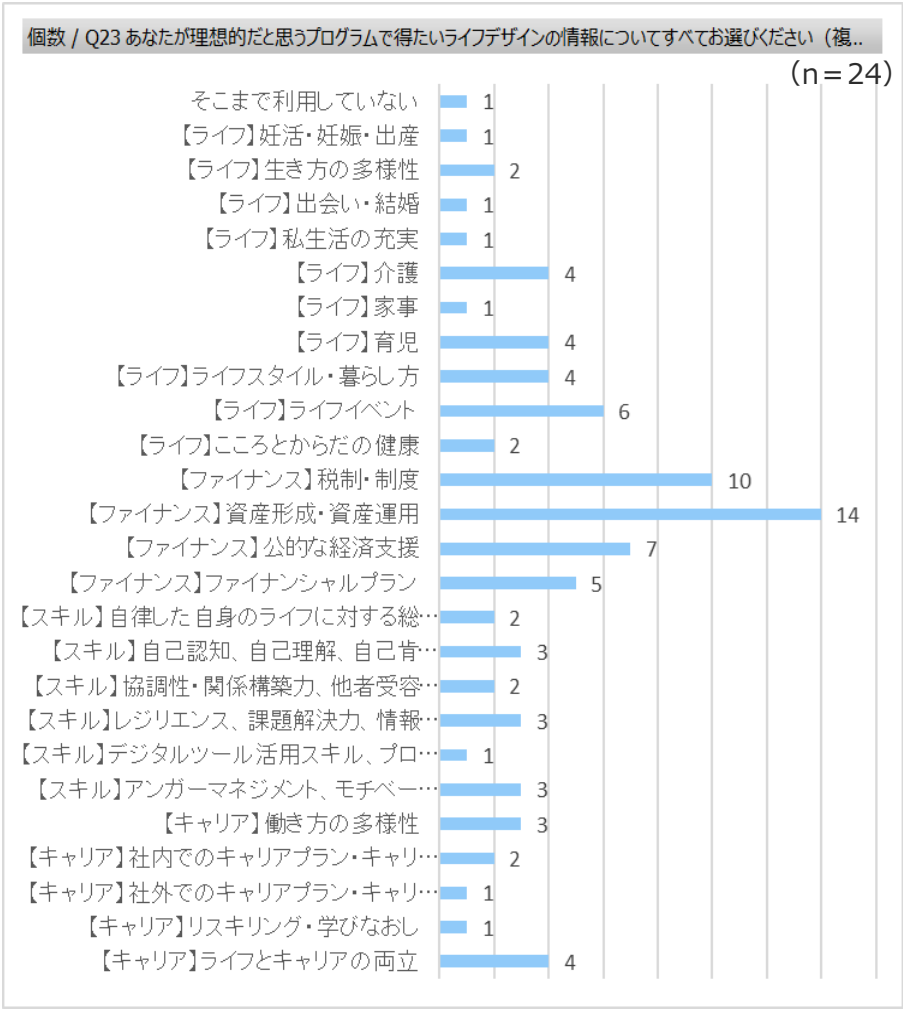






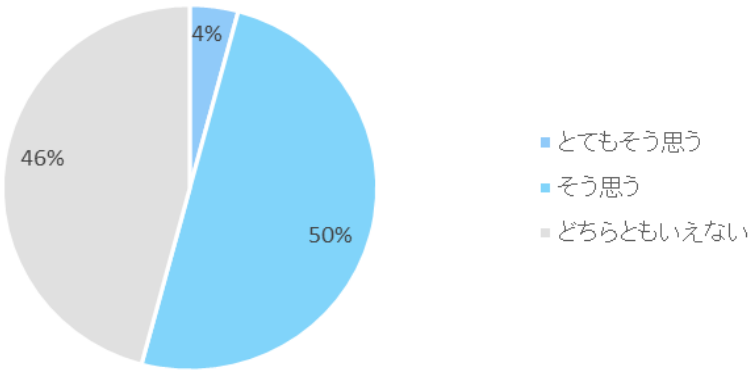
アンケート調査結果（事後調査）6/7



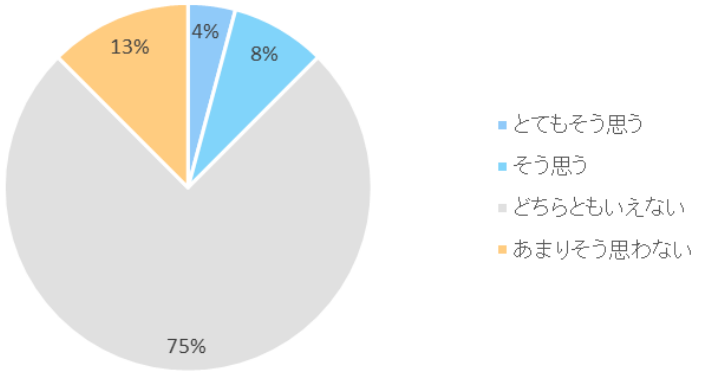


アンケート調査結果（事後調査）7/7

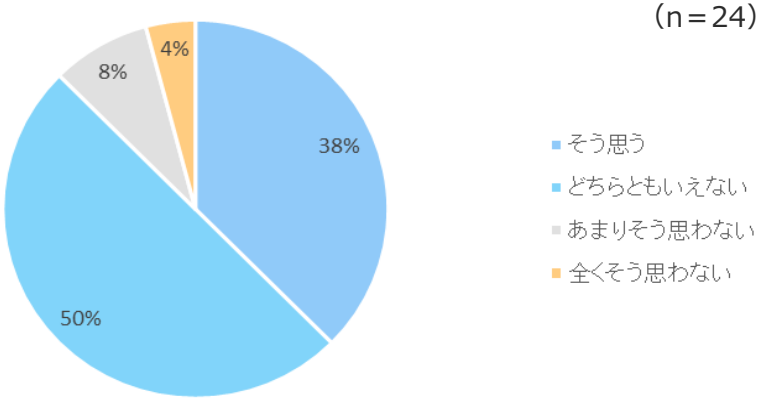
個数 / ライフデザインは自分にとって意味があると思いますか　（n＝24）



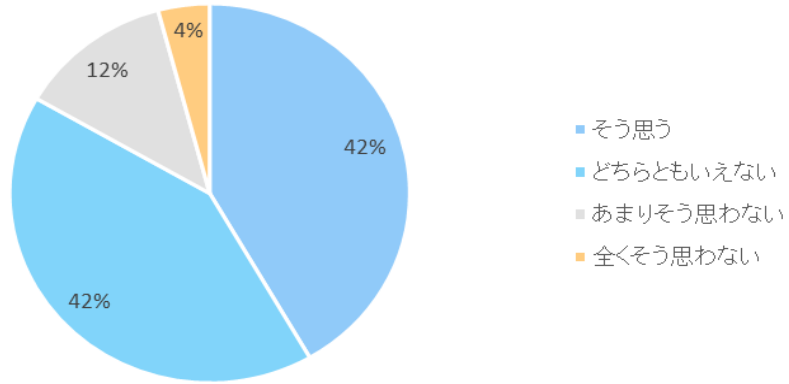
個数 / ライフデザインを友人や家族にも勧めたいと思いますか　（n＝24）



個数 / 今後もライフデザインに関するプログラムが企業や団体等から提供された場合に取組みたいと思いますか　（n＝24）



個数 / 今後もライフデザインに関するプログラムに個人的に取組みたいと思いますか　（n＝24）



三井住友海上火災保険株式会社
〒101-8011　東京都千代田区神田駿河台3-9
E-mail：support@ms-ins.com
URL：https://www.ms-ins.com